

どの子にも「わかる、できる」喜びを実感させることができる授業づくりの研究 ～特別支援教育の視点を取り入れた知識構成型ジグソー法による学習を通して～

飯塚市立庄内小学校 教諭 児玉 正昌

主題・副主題の意味

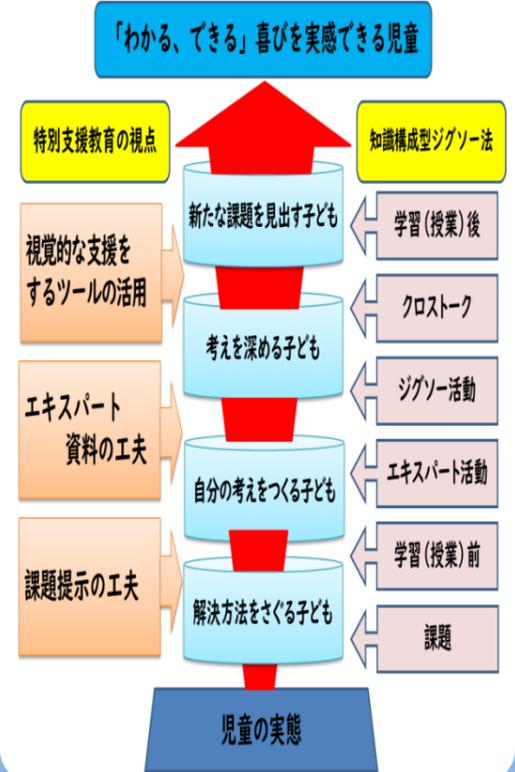
「『わかる、できる』喜び」

主体的に問題解決に取り組み、対話活動を通して課題が解決したという達成感や、課題解決の方法や新しい考え方、新たな課題を見つけたときの充実感。

「特別支援教育の視点を取り入れる」

児童の特性や実態を的確に把握した上で、児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援の工夫を、すべての児童を対象にした手立てとして授業をデザインしていくこと。

【研究構想図】



【研究の目標】

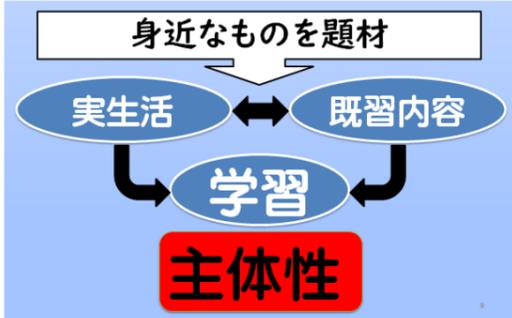
通常学級での学習において、**全ての子どもにとって「わかる・できる」喜びを実感させることができる授業を構築するため、特別支援教育の視点を取り入れた知識構成型ジグソー法による学習を行うことの有効性を明らかにする。**

【目指す児童像】

- 主体的に学習課題と向き合い、自ら見通しを持ち、**解決方法をさぐる子ども**
- 資料から必要な情報を読み取り、**自分の考えを持つ子ども**
- 自他の考えを交流しながら**考えを深める子ども**
- 自分の言葉で学習内容をまとめ、**新たな課題を見出す子ども**

研究の実際
【単元「水溶液の性質とはたらき」】

【着眼1：課題提示の工夫】



知的好奇心を刺激する課題

課題と既習事項を結びつける対話

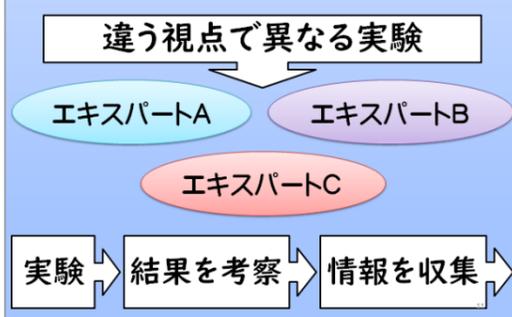
簡単です 余裕で調べられます

リトマス紙がちょうど切れていて使えない

今までやってきた実験をすれば調べられると思う

既習内容 = 学習課題 = 実生活

【着眼2：エキスパート資料の工夫】



【エキスパート資料】

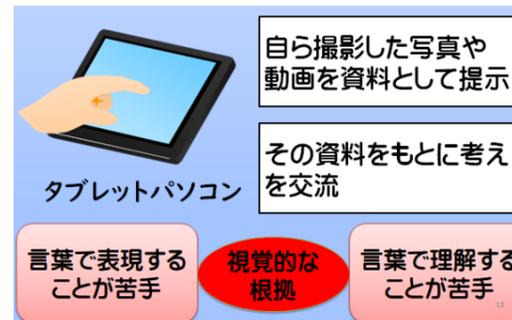
- A: 水溶液を加熱し、水を蒸発させ溶けている物を調べる
- B: 水溶液に金属(アルミニウム)を入れ反応を見る
- C: 二酸化炭素と混ぜて反応を見る

結果を表に書き込む

結果を図で表す

相手・目的意識のある情報収集

【着眼3：視覚的な支援をするツールの活用】



【具体物の操作】

C児: まず、間違いないのが、Eやね。溶けたし、くさかったけね。 **根拠**

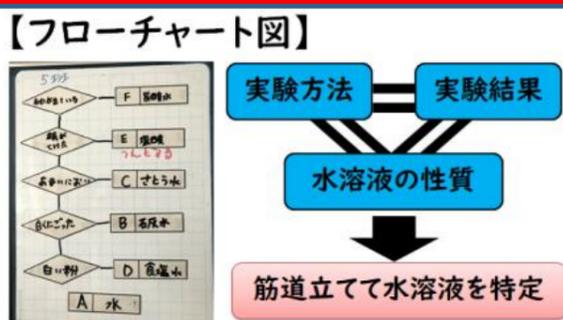
C児: うん。白く濁ったけ。えっと、Bが石灰水でいいよね。 **根拠**

C児: そうやね。甘い匂いがしたっ言いで、えっと、あ、Fが炭酸水やき。 **根拠**

具体物の操作 → 対話 → 情報の整理 水溶液の性質の理解

根拠を示しながら情報整理

水溶液の性質について考えを深める



【成果】

- 判別できなくなった水溶液を特定していくという設定は、児童の知的好奇心を刺激し、対話活動を活発にした。
- 実験をエキスパート活動に仕組むことは、活字自体に抵抗を示す児童や情報収集が苦手な児童にとっても有効であった。
- ICT機器の活用や具体物の操作、フローチャートの作成においては、全ての子どもにとって「わかる・できる」喜びを実感することができる授業を構築する上で有効であった。

【課題】

- 使用するツールそのものがもつ特性を十分に理解し、実態と照らし合わせながら授業をデザインしていく必要がある。
- 児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援のさらなる工夫が必要である。

成果と課題